

平成 29年 10月 26日

敬愛短大附属幼稚園だより 11月号



秋の大運動会、個別面談、お誕生会、敬愛フェスタ、PTA文化鑑賞会、一日動物村と行事が目白押しの10月でした。また、衣替えの時期でもあり、正門前では年長さんのお母さんが、これで見納めとなるお子さんの夏服姿を愛おしそうに撮影する様子も見られました。年長さんはあと5か月もすると思えばの幼稚園生活も修了ですね。これからの園生活を存分に楽しんでくださいね。

1 附属幼稚園ならではの実習経験

当園では、千葉敬愛短期大学の1年生全員が観察実習のため、7月から12月にかけて毎回20名を超える人数が参加して、お兄さん・お姉さん先生として元気いっぱいに園児たちと園庭や保育室で活動しています。初めての实習で緊張しながらの初日。学生さんたちは「どんな子がいるんだろう」「子どもたちの顔や名前を早く覚えられるかな」「すぐに慣れてくれるかな」等緊張と不安いっぱい実習に来ます。

でもそんな不安はたちどころに解消。多くの園児たちが集まってきて様々な方向から同時に声かけが始まります。こうして学生さんたちはあらゆる方向からの滝のように降ってくる園児たちの話に圧倒されるところから一週間の実習の舞台の幕が開きます。

夢中で過ごした一日はあっという間に過ぎ、気がつけば最終日の園児たちとお別れの時を迎えます。前夜、遅くまでかかって製作した手づくりのプレゼントを園児たち一人一人に手渡すと自然と涙がこぼれてきます。わずか一週間の実習ですが、濃密な一週間です。園児たちはその後の短大での敬愛フェスタバス遠足でお兄さん・お姉さん先生に再会することが出来ました。お兄さん・お姉さん先生はそう遠くない未来の保育者として頑張ってたかな。「幼稚園のぼくたち・私たちも頑張るよ・・・」そんなかわいい心のエールが聞こえてきました。

2 チーム敬愛そして「いつか戻っておいで」

この時期、来年度から幼稚園や保育園、認定こども園に入園予定の保護者の方は友人の方に評判を聞いたり、ホームページを閲覧したりされていると思います。その際、実際に足を運んでそれぞれの園の様子をご自身の眼でご覧になることが大切です。ホームページは便利ですが、実際に保育がどのように行われているかを見ることが大事です。そして、何よりも次に確かなのが、現在その園に通われているお子さんのいる保護者の方にお聞きすることです。千葉敬愛短期大学附属幼稚園はこのどちらの面からも自信をもって情報を提供させていただいております。ホームページの情報も非常に多くありますし、何よりも現在お子さんを通わせている保護者の方々の話で、特に卒園を来年に控えている方は、「ああ、もうすぐ卒園してしまうのね」「園の行事はもうこれが最後ね」と言うように去りがたい思いを語ってくださいます。それは職員も同じです。国もようやく幼児教育の大切さを認識し、保育料の無償化についての検討や先生方の待遇についての財政措置を進めています。

質の高い幼児教育は、温かい眼差しの保護者の方と質の高い先生方にかかっています。発達年齢に即した教育を多くのどの子どもたちも得られるようにこれからもチーム敬愛として頑張っていきたいと考えています。当園は昭和48年に開園し、「敬天愛人」（自然を敬い、人を愛する）を建学の精神として、この幼稚園の伝統ある幼児教育を大切にしながら、将来を見据え、時代に即した柔軟な姿勢で子どもたちを保護者の方々と協力しながら育ててきています。そして、この園で育った子が現在は当園の先生として何人も勤務しています。それは、この園での幼児期の教育が良かったことの何よりの証です。若手からベテランまでバランスよく揃っているこの幼稚園を卒園させてよかったとこれから先も言っていただけるようチーム敬愛として、いつまでも温かい眼差しを持ち続けたいと思います。

(園長 杉山)